望洋荘便り

第　２　号
平成１６年
１月発行

謹んで新春の
およろこびを申し上げます

平成十六年　元旦

望洋荘落成記念祝賀会での理事長の挨拶から

社会福祉法人　りんさく福祉会
理事長　須田　滉

社会福祉法人　りんさく福祉会を代表いたしまして一言ご挨拶申し上げます。

本日は、介護老人福祉施設　望洋荘　落成記念祝賀会に、御出席頂き、ありがとうございます。このたび、福島県およびいわき市等の行政関係各位のご指導ご支援のもと、いわき市において十二番目の介護老人福祉施設として完成するに至りました。謹んで御礼申し上げます。

この完成した施設建設地は、偶然にも私の生まれた年の昭和一四年全国八ヶ所に作られたうちの一つ東北地方療養所の跡地であります。これは、当時いわき地区の医療機関として結核等の感染症撲滅対策の為の大きな施設でありました。そして戦後、徐々に治療医学の進歩と予防医学が発展し、感染症は激減の一途をたどりました。

予防医学の一つとしての成人病対策が進んでいる時代に、そこに存在した東北地方療養所も、自然衰退の道をたどりました。

その事と併せて、自分自身を振り返ってみますと、いつのまにか医学の道を志してから四十年余となりました。戦後の長い間、食糧難の時期があり数多くの病気がありました。今考えれば、これらの病気というのは、薬を飲めば、注射をすれば、十分な食事を取ることができれば、克服の可能な病気であった事とおもいます。予防可能な避けることができる病気でした。しかし生活が豊かになると共に、いままでの病気とは違い生活習慣の変化からの病気、いわゆる成人病と闘わなければならない時期が二十年くらいはありましたでしょうか。

そして、ふと治療現場を振り返ってみると、お年寄りがかなり増えている事に気付きました。逃げ場のない「老い」というものをみせつけられました。老衰は医療によって止めることはできない。何ら打つ手もなく、防げないものだと言うことをつくづくかんじました。

二十一世紀に入り、益々の少子高齢化を迎え老人対策が大きな社会問題となってきました。須田医院開設二十五周年の節目にあたり、時代は変わりましたが、この風光明媚な東北地方療養所の跡地に、介護老人福祉施設『望洋荘』として形を変えて蘇らせる事ができました。

社会問題となっている地域医療・老人医療に取り組み医療人として培ってきたものを地域の皆様に還元すべく、この大きな事業を興す使命を与えられたことに深く感謝すると共に責任の重さも痛感しております。

最後になりましたが、本日ご来場の皆様のこれまでのご支援、ご厚情に深謝すると共に、今後とも私どもにさらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げ挨拶とさせて頂きます。

『報徳苑にて』

いわき市四家市長来訪！

十二月十一日(金)のこと、午前十時四十分頃、予定より早く『オレの地元にこんな立派な新しい施設が出来たのに、なかなか来るチャンスがなくて、やっと実現した』と言いながら入って来られました。いわきの施設については、いつも気になっておられるらしく、利用されている老人について、いろいろ質問されました。

施設内を案内してますと、設備の事もさることながら、職員の事にも心くばりして下さりました。ホールでは、そこで寛いでいた利用者へ『ここで生活してたら、のんびりとして、美しい海と灯台をみて、心穏やかになるでしょう。身体には充分気をつけて、皆仲良く、長生きして下さい』とあいさつされ、一人一人と握手しながら、写真を撮ったり、言葉を掛けたりなど、庶民派市長の暖かい人柄をかいまみる事が出来ました。

お忙しい中、本当にお疲れ様でした。そして有難うございました。

『写真右面上下』
★四家市長の突然の訪問に利用者全員大喜び。

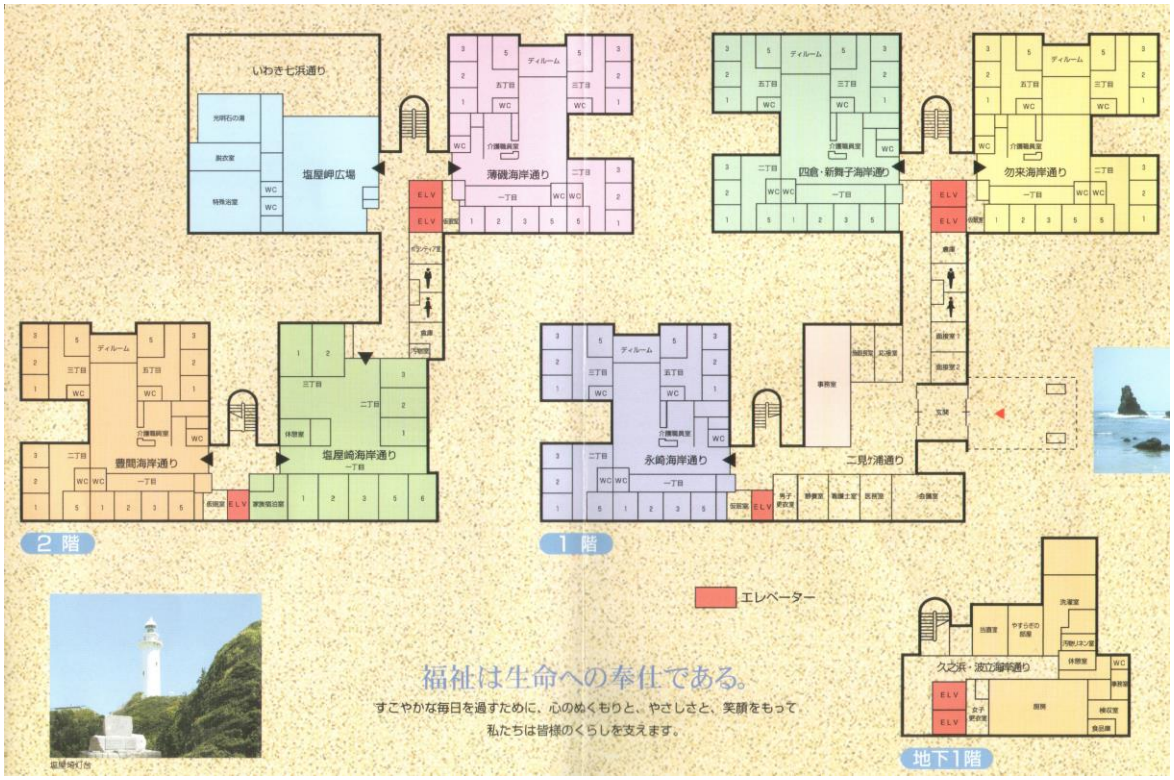
『写真下面』
★『望洋荘』から一望できる太平洋の美しさには絶賛のご様子でした。

『写真上面』
★『望洋荘』開設記念祝賀会理事長の挨拶の光景です。

多数のご出席を賜り誠にありがとうございました。

職員一同、これまでのご支援ご厚情に深く感謝すると共に、今後とも皆様のさらなるご指導ご鞭撻をお願い致しますとあいさつ。

『望洋荘』全館見取図



理事長の著作集より　その②

『母の膝枕』

須田　滉

生活は貧しくても、優しい母親が居れば心身健康な子が育つと言われています。幼き児をやさしく胸に抱きかかえ、時には膝枕にして髪の毛を撫でながら寝かせる。そんな中で母と子の絆は形成されるのでしょう。

先日、上京の折、芸術座にて井上靖原作、堀井康明脚色・演出の「月の光」の舞台を観る機会がありました。原作者が五十七歳から六十七歳までの十年の歳月をかけて書き上げた「我が母の記―花の下・月の光・雪の面―」を舞台化したものでした。

この作品は自分の母が老いて、呆けて、やがて死に抱かれるように生涯を終える姿をじっとみつめ続けたものです。八十歳、八十五歳、そして八十九歳になった母の、心身ともに老い、徐々に「壊れ」ていく様が綿々と描かれております。演出家はこの老いゆく母の時折みせる不可解な行動、可能なかぎりそれを理解しようとする子の姿をリアルに演じさせています。

何度も同じ事を繰り返す八十歳の老婆を世話している妹から、「三日でもいいわ、三日間おばあちゃんと暮らしてごらんなさい、はかなさなんて感じる余裕はなくなってしまいますから、・・・」と反論されると、「さぞかし、そうであろう」と納得する場面、呆けた母が六十過ぎの息子を膝枕させ、あたかも幼児をあやすような場面等々印象深いものがありました。

劇中に描かれている「老人問題」は恵まれた家族か否かではなく、老人と暮らす家族の闘いの一つのモデルハウスと思えた。又、長寿大国となった日本の現状に対する肯定的な賛辞としての意義を持つ芝居と感じました。

医療に携わる私共医者は今までにも老人医療の分野で痴呆の問題に多く接してきました。容易に解決策は見出せない。が、ケアマネージャー等の力を借りながら家族が一丸となり、この「闘い」に・・・。お年寄りに率先して声を掛け、相手の幼稚と思える事であろうと聴く耳を強く持って。　お願いします。

医者の目―福島民報　（健康欄への寄稿文から）

今月の言葉その①（倫理研究所編標語集から）

威張（いば）る人（ひと）ほどバカにされる

地位や立場を笠に着て、偉そうにするほど愚かしいことはない。鼻持ちならない態度は周りから嫌われ、偉ぶる心は他から学べず、成長も止まる。相手を尊重できる慎（つつ）ましい人物こそ人々から尊敬される。

『いわき寄席』（須田医院主催）

お蔭様で第八十三回を迎え、今回は『望洋荘』開設記念寄席での光景です。

古今亭志ん橋師匠演じる祝獅子舞はまさに職人芸でした。

『豊間青年会の皆様』
開設記念祝賀会会場にて
獅子舞をご披露
頂きました。
ありがとうございました。

【第83回望洋荘開設記念いわき寄席】より

古今亭　志ん橋

師匠が祝獅子舞をご披露
会場からも大きな拍手でした。

《次回第８４回いわき寄席のご案内》

日　　時：平成16年1月20日（火）
開演時間：午後6時30分　入場無料
場　　所：いわき市総合保健福祉センター

春風亭　正朝　独演会

御家族、御友達お誘い合わせの上おいで下さい。

介護老人福祉施設　『望洋荘』

職員紹介②&コメント集

副事務長　須田　直志

今は、職員皆、暗中模索しながらの仕事ですが、利用者の皆様が日々穏やかに過ごされます様、一生懸命頑張って行きたいとおもっております。

看護主任　徳原　由美子

望洋荘で働き始めてから、もう一ヶ月が経過しました。私の仕事は、利用者様の健康管理をさせて頂くわけですが、当施設は、家庭に居るような雰囲気で生活をして頂く事をモットーにしている所です。その中で、利用者様と良く接し会話を大切にしながら異常を早期に発見し、皆様の健康の保持増進に努めていきたいとおもっております。

介護主任　木村　久美子

「楽しく笑顔で日々を過ごせたら・・・」そして、そのお手伝いが少しでも出来れば～。と、そんな思いでこの仕事をはじめました。介護の仕事は、仕事ではなくて両親への想い、そう考えて現在進行中です。

？才・・・・まだまだデス。

「人が好き」である限り、ずうっと続けて行こうと思っています。いつでも、どんな時にでも笑顔を忘れずに。

辞令交付も終了し開設記念式典も済み

晴れて『望洋荘』の職員になりました。

【　介護保険一口メモ　②　】

介護老人保健施設（老人保健施設）

病状の安定期にあり入院治療の必要はないが、リハビリ・看護・介護を中心とした医療ケアを必要とする方で要介護1以上の認定を受けた方を対象とします。

医療ケアと日常生活サービスを併せて提供するとともに、心身の自立を支援し、家族への復帰を目指す施設です。

介護療養型医療施設

手術を要する状態や急性期が終わり、病状が安定し長期療養を必要とする方のための介護に重点を置いた医療施設です。

医療・療養上の管理や看護などを受ける事が出来ます。既存の病院が介護保険の指定を受けています。

編集後記
『望　洋　荘』便り
平成十六年一月一日発行
発行所　いわき市
平豊間合磯三十九番地
社会福祉法人　りんさく福祉会
介護老人福祉施設　望洋荘
電　話　（０２４６）５５－７３７３
ＦＡＸ　（０２４６）５５－７２５５